

平成 25 年度 教員活動自己点検・評価報告に対する学長の見解

自己評価であるので、自己評価にきびしい教員と自己評価に甘い教員が依然として見受けられるが、昨年度に比べれば、各教員の評価の基準がかなり一定になり、バラツキがとれてきた。

当大学は、完成年度を迎えて間もない新しい大学であり、教育活動ならびに委員会活動に加えて大学の運営に関する業務など多岐にわたっている。このような状況の中で各教員とも学生の教育活動には各々の創意工夫により熱心に取り組んでいる。

研究活動は一部の教員は、活発に取り組んでおり、競争的資金の獲得も多いが、平均的には活発とはいえない状況にある。現在続けている科研費を申請する教員を毎年増やしていく取り組みなどをさらに徹底すべきである。

昨年同様、教員間の委員会活動などの業務負担の差が著しい。このような業務は、活動力のある教員にどうしても偏りがちになるのはやむを得ないが、管理者としては各教員の個性をいかし、教育、研究ならびに委員会活動などの業務をバランスよく配置すべきであると考え。さらに業務量を客観的に評価出来るシステムを構築すべきであると考え。

大阪保健医療大学
学長 清野佳紀